

## 欧州危機とアジアの信用収縮

欧州危機は世界的な信用収縮を加速させる。対外投融資で世界最大の欧州の銀行の貸し出し能力が一段と低下していくからである。その影響は、南欧諸国はもちろんのこと、これまで高成長を享受してきたアジア諸国にとりわけ厳しいことになるであろう。

国際決済銀行(BIS)によると、世界の銀行の対外与信残高は2011年末で30兆ドル。そのうち欧州の銀行が18兆ドルと、米国、日本のそれぞれ3兆ドルを上回って圧倒的に大きい。アジアについてみても、世界の銀行の総与信残高2.8兆ドルのうち欧州の銀行が1.3兆ドルと、米国の4000億ドル、日本の3000億ドルをはるかに上回っている。

リーマン・ショック後の08年末から11年末にかけて、欧州の銀行は、ユーロ圏向け与信残高を1.8兆ドル減少させた。一方、アジア向けを3300億ドル増加させている。

中国向けはこの3年間増やし続けているが、中国を除く主要アジア9ヶ国向けでは、10年末までの2年間に2370億ドル増やしたものの、11年には430億ドル減少させている。

欧州の銀行全体としては、この3年間で与信残高を3兆ドル減らしているが、国際通貨基金(IMF)の試算では、これから2年間で少なくとも2.6兆ドルの縮小が予想されている。財政危機で手持ちの国債の評価損が発生し、さらに景気後退で不良債権が増えてくると、銀行の与信能力は一段と低下していかざるをえない。

欧州経済の見通しが悪いのは当然だが、アジアへの影響としては、対欧輸出の落ち込みよりも、資本の流入が途絶えることの方がはるかに大きいであろう。投資主導の高成長を金融面で支えてきたのは、巨額の資本の輸入であったからである。欧州の銀行の急激な信用の収縮は、リーマン・ショックの傷を癒しきれない米国や日本の銀行が肩代わりするには、大き過ぎるのである。

( 2012.5.25 十字路 )